

8月のテーマ:手術見学について

当院では、職員が手術を見学することができます。(手術見学…オペ見と言われます)
今回は、実際に手術見学をしたリハビリ課スタッフにインタビューしてきました！

《手術場面の写真》



【質問内容】

- ①見学した手術、対象疾患は？
- ②なぜ手術見学しようと思いましたか？
- ③見学にあたって、どのような予習、復習をしましたか？
- ④見学してどう感じましたか？また、今後どのように役立てようと思いましたか？

★Tさん・理学療法士・4年目

- ①腱板断裂、ARCR
- ②今まで講習などで目にしてきたものは静止状態の鏡視下像だったので、断裂部分の広がりや毛羽立ち、また付随する損傷とその処置が分かりづらかったので実際に目にしたくなったから。実際の解剖知識も身につくと考えたから。
- ③一般的な腱板損傷の適応手術(手順)、並びに広範囲の場合や断裂部分の形状に沿った術式変法をいくつか。
- ④断裂部分の修復や付随する損傷の処置、また Dr.の手術場面での生の声を聞ける点でいくつか情報が得られました。ただ鏡視下での実際の画像は分かりづらく、随時 Dr.に確認させていただいたり、事前に見方の復習をしておけばより多くの情報が得られたのではないかと振り返って思いました。得られた情報は治療場に生かしていると考えます。

★Tさん・作業療法士・3年目

①右橈尺骨遠位端骨折

②術後、自分が作業療法担当となるため。また、手術を見学し、解剖的な知識を身につけたかったこと。そして今後のリハビリの参考にしたかったことが見学しようと思った理由です。

③解剖学の教科書を参考に筋の走行等を予習しました。

④実際に見学させて頂いて、教科書を見るより具体的にみる事が出来て良かったです。教科書ではあいまいなイメージしか浮かばなかったのですが、今回見学し具体的なイメージが出来たのでリハビリで術部等を操作する際に役立てていきたいです。

★Fさん・理学療法士・1年目

①大腿骨頸部骨折、γ -nail 固定術

②解剖や術式に対する理解を深めるため。

③解剖の復習、術式、その術式によって生じる症状を復習しました。

④今回、初めて手術を見学し、Dr.から解剖学的な説明を受け、本を見るより一層知識が深まりました。見学させて頂いたことから、その手術を行うことによってどのような症状があらわれ、どのように対処・治療していくべきかといった点をリハビリに生かしていきたいです。

☆編集者より・・・

経験年数や職種に関わらず、実際の手術場面を見学することで、解剖や術部の状態についての理解も深まり、術後のリハビリテーションに役立てることができているようです。手術見学は、担当症例かどうかに関わらず希望があれば随時可能となっています。Dr.や手術室のスタッフの方の協力のもと、貴重な機会をいただいています。積極的に手術見学をして、より質の高い訓練を提供していきたいです！